

○全体景況（一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している）

・生産は、輸送機械が底堅く推移しているが、他方で、海外経済減速の影響等により、電子部品・デバイスがスマートフォン等で一部底入れ感もみられるものの本格的な需要回復には未だ至らず、生産用機械が工作機械等で弱含みとなっている。設備投資は、生産能力増強や人材不足解消のための省人化投資等で増加傾向が継続。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、天候不順の影響等により、一部に弱い動きがみられるものの、高額品は引き続き好調。

○生産

- ・生産用機械：工作機械の受注減少等で、関東、東海、近畿で弱含み。
- ・電子部品・デバイス：一部底入れ感もみられるものの、東北、関東、北陸、中国、四国で弱い動き。
- ・輸送機械：乗用車等を中心に東北、関東、東海、四国、九州で底堅く推移。

○設備投資

- ・製造業：生産能力増強や設備の更新投資に加え、人手不足を補うための省人化投資などで増加傾向が継続。
- ・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装に加え、人手不足へ対応するための省人化投資や消費増税対応を含めたシステム投資への動き。

令和元年7-9月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

○雇用情勢

- ・製造業：一部の生産現場で充足感もみられるが、資格や技術を有する人材の不足が顕著で、人材の確保が困難。労働条件の改善、多様な人材の活用の他、業務の効率化や処遇改善の動き。
- ・非製造業：小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。採用手法の多様化や、高齢者や外国人など多様な人材の活用がみられるほか、人材確保のための処遇改善の動き。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：天候不順の影響等により衣料品は低調も、化粧品や高額品はインバウンド需要もあり引き続き好調。
- ・コンビニエンスストア：一部に天候不順の影響もみられたが、カウンター商材等は引き続き堅調。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、買い上げ点数の増加等により引き続き堅調。
- ・家電大型専門店：高付加価値商品を中心にエアコンやテレビが好調。
- ・新車販売：新型車効果等により普通車、軽自動車が堅調。
- ・観光：日韓関係の影響によるインバウンドの減少等は懸念されるものの、概ね堅調。

7-9月期企業の声

	企業の主な声
生産	<ul style="list-style-type: none"> ・金属工作機械は、国内向けが弱含み、中国を中心に海外向けが弱い動き。(生産用機械／東海) ・米中貿易摩擦の影響を受け減少。日韓関係に関しては直ちに影響が出ることはないとみている。 (電子部品・デバイス／北陸) ・米国向けや国内向け自動車をマイナーチェンジした効果もあり好調。(輸送機械／九州)
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足に対応するため、組立工程にロボットを入れる予定。(金属製品／近畿) ・老朽化インフラ設備の更新や新製品の増産用投資を実施予定。(電子部品・デバイス／関東) ・建設現場では先進技術の導入が進んでおり、それに対応するためのシステム構築を実施。(建設業／北海道) ・消費税対応、高機能レジに切替。(小売／中国)
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・省力化を進めているため生産現場に逼迫感はないものの、技術者が慢性的に不足。(汎用機械／北陸) ・外国人技能実習生や国内の派遣社員の受入れを増やしていく予定。(生産用機械／四国) ・ITリテラシーを有する人材を第二新卒で採用。(運輸／沖縄) ・若手社員への昇給率の引き上げ。(ガス／近畿)
消費	<ul style="list-style-type: none"> ・高額品への関心は引き続き強いが、中間価格帯以下のファッション関連などの動きは鈍い。(百貨店／関東) ・長梅雨、冷夏により、飲料、アイス、冷やし麺の売上が低迷。(コンビニ／中国) ・大型家電の売上が好調。(家電量販店／東北) ・インバウンドは、全体では微増であるが、韓国からの落ち込みが大きい。(旅行／四国)

北海道

<p>全体景況</p>	<p><緩やかに持ち直している> 生産はパルプ・紙・紙加工品の生産体制の見直し等により、弱い動き。個人消費は気温上昇に伴う夏物商材の売上げが一部でみられたものの、全体としては一進一退。観光は日韓関係の影響によるインバウンドの減少等、一部に弱い動き。</p>
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は弱い動きとなっている ✓ 生産体制の見直しがあった企業があり、新聞用紙の生産が減少したことなどから、弱い動きとなっている。 ✓ 米中貿易摩擦の影響で、鉄鋼業やパルプ・紙・紙加工品工業などで製品の需要が減少しているとの声がある。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業は大幅に増加し、非製造業は前年度の反動から減少するものの、全体では増加している。 ✓ 製造業は、北海道胆振東部地震の影響などから、設備投資が今年度にずれ込んだ企業などもあり、大幅に増加。 ✓ 非製造業は、前年度の幅広い業種で、比較的大きな設備投資があったことの影響で減少。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。一方、雇用のミスマッチにより、建設業、製造業、サービス業の現場など、多くの職種で人手不足となっており、生産活動や公共工事、住宅建設などへの影響が懸念されている。</p> <p>○個人消費は一進一退となっている ✓ 百貨店は、一部店舗の閉店の影響が出ている。スーパーは、気温の上昇で夏物衣料の売上げが伸びた。 ✓ コンビニエンスストアは、飲料などの夏物商材が好調。ドラッグストアは、店舗数の増加に加え、飲食料品が堅調な動き。 ✓ ホームセンターは、レジャー用品などが、家電販売は、エアコンなどが好調。 ✓ 観光は、国内客数は横ばい状況。インバウンドは日韓関係の影響で韓国客数が落ち込んでいる。関係者は10月からの北海道と韓国を結ぶ航空便数の激減による影響を懸念。</p>

<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) <small>※季節調整値</small></small></p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p>
	<p>93.2(97.2)</p>	<p>1.23(1.25)</p>	<p>0.1%(0.6%)</p>	<p>2.9%(3.5%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

東北

<p>全体景況</p>	<p><一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている> 生産は、電子部品・デバイスが弱含んでいるものの、輸送機械、生産用機械が底堅く、全体としては一進一退。個人消費は、自動車や高額品に動きがみられたが、全体としては足踏み状態となっている。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は一進一退となっている ✓ 電子部品・デバイスは、弱含んでいる。 ✓ 輸送機械、生産用機械は底堅く推移している。</p> <p>○設備投資は横ばいとなっている ✓ 2019年度の設備投資計画については、全産業で約9割弱が「変更なし」としている。前期時点と比べ、製造業で「増額」とする企業が減少し「変更なし」とする企業が増加した。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 2019年8月の有効求人倍率は1.45倍、新規求人倍率は2.06倍とそれぞれ高水準の動きが続いている。 ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業が前期同様の約5割。給与・賞与等の処遇改善を実施、予定及び検討の事業者が前期同様の約8割となっている。 ✓ 人手不足に関する主な声としては、定年退職等による人員減少、応募者の減少、若年層や資格者の人員不足など。</p> <p>○個人消費は足踏み状態となっている ✓ 百貨店は、衣料品、高額品に動きがみられた。 ✓ スーパーとコンビニエンスストアは、来店客数が減少している。 ✓ 家電販売は、大型家電が好調で売上が増加した。 ✓ ドラッグストアは、新店効果と日用品のまとめ買いにより売上が増加した。 ✓ 新車販売は、持ち直しの動きがみられる。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p>98.3(103.9)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.45(1.49)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.8%(0.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.4%(2.6%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

関東

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉 生産は、引き続き国際情勢の影響等から電子部品・デバイスや工作機械を中心にこのところ弱含み。雇用情勢は、着実に改善する一方、人手不足が継続。個人消費は、業態間の差異を伴いつつも緩やかに持ち直している。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産はこのところ弱含み ✓ 半導体製造装置、電子部品・デバイスは、半導体等の在庫調整の回復の遅れにより需要が弱く、中国経済が低迷していることから、受注が減少。在庫調整には年内いっぱいかかり、本格的な需要回復には年明け以降を見込むとの声も。 ✓ 輸送機械は、国内外需要ともに堅調さを維持しつつも、海外での景気減速により弱さがみられる。米国等の関税政策に対する懸念は、依然として払拭されていない。 ✓ 工作機械関連は、国内外で受注が減少し、引き続き生産に影響が出ている。</p> <p>○設備投資は前年度を上回る見込み ✓ 製造業では、予定どおり設備投資を進めるとの声が多かった一方、生産用機械等の一部に受注減に伴う設備投資計画の消極的な変更がみられた他、老朽化対応に係る設備投資は引き続き多い。 ✓ 非製造業では、特に大きな変更はみられず、引き続き省人化に向けた設備投資が多い。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善している ✓ 製造業、非製造業ともに引き続き人手不足により、外国人労働者や派遣労働者で補完している状況。また、技術系人材は引き続き人手不足感が強い。 ✓ 他方、働き方改革は着実に浸透しており、残業抑制に加え、テレワーク等の新しい働き方も普及しつつある。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している ✓ 百貨店は、インバウンドを中心に高額品や化粧品が引き続き伸びたものの、天候要因から夏物衣料が苦戦。 ✓ スーパーでは、今夏の天候不順により来店客数に減少がみられた。一方、新店、リニューアルによる集客効果も。 ✓ コンビニエンスストアは、引き続き付加価値の高い商品や惣菜・冷凍食品等の中食販売強化により、堅調に推移。 ✓ 家電販売では、オリ・パラに向け、テレビが好調。白物家電など高単価商品の購入が増加。Eコマースやキャッシュレス決済の多様化を進めている。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p style="text-align: center;">98.1(103.2)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.60(1.63)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">1.2%(▲0.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.5%(2.1%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、電子部品・デバイスは低水準となっているものの、主力の輸送機械が高水準で推移。個人消費は、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどが堅調であることから、緩やかに持ち直し。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は高水準で推移している ✓ 主力の輸送機械は、乗用車生産が国内向け・輸出用ともに高水準であり、全体では高水準で推移。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に低水準となっている。 ✓ 金属工作機械は、国内向けが弱含み、海外向けが弱い動きとなっていることから、全体でも弱含み。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業では、合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品やファインセラミックスは新製品対応や生産能力増強の動き。大企業、中小企業ともに、投資意欲が高い。 ✓ 非製造業では、ドラッグストア、スーパー、コンビニエンスストアで新規出店や改装の動き。 ✓ 製造業、非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 製造業では、大企業は不足感が緩和しているものの、中小企業は不足感が継続。非製造業では、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続しており、募集をしても人が集まりにくい状況。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している ✓ 百貨店は、衣料品が不調なものの、高額品やインバウンド消費は、引き続き好調に推移。スーパーは、食料品が伸び悩み。 ✓ コンビニエンスストアは、カウンター商材が好調。ドラッグストアは、化粧品が好調。家電販売は、生活家電が堅調。 ✓ 小売業の各業態間における競争が激化。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p>108.0(114.6)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.90(1.94)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.5%(▲1.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>0.3%(2.5%)</p>

※指標は8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(北陸)

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、改善している〉 生産は、電子部品・デバイスで弱い動きがみられるものの、化学や生産用機械を中心に高水準で推移。個人消費は、スーパー、ドラッグストアなど新店効果もあって良い動きがみられ、持ち直し。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は一部に弱い動きがみられるものの、高水準で推移している ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの一部で新製品に向けた増産の動きがみられるものの、自動車向けが鈍化しており、全体として弱い動き。 ✓ 化学は、ジェネリック医薬品や受託製造品を中心に高水準で推移している。 ✓ 生産用機械は、半導体製造装置などに動きがみられ、繊維機械や工作機械、国内向け建設機械などが高水準で推移している。一方、中国経済の減速や米中貿易摩擦などにより受注等への影響がみられる。</p> <p>○設備投資は高水準で横ばいとなっている ✓ 製造業では、大型投資は一巡したものの、引き続き生産能力増強に加え、生産性向上投資が積極的に行われている。 ✓ 非製造業では、新規出店や店舗改装に加え、人手不足に対応した省力化投資が行われている。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 製造業では、一部の生産現場で充足感もみられるが、引き続き派遣社員等から正社員に切り替え募集する企業があるなど、人手不足が継続。 ✓ 非製造業では、慢性的な人手不足が続いている。高齢者・外国人など多様な人材の活用等による対応や、福利厚生の実等により従業員の満足度向上に取り組む企業がある。</p> <p>○個人消費は持ち直している ✓ 百貨店は、化粧品や高額品は引き続き堅調に推移している。 ✓ スーパーは、競合の影響があるものの、新規出店効果などにより、売上げは堅調に推移している。 ✓ ドラッグストアは、食料品の品ぞろえ強化などにより集客力が高まり、ついで買いが増えるなど、良い動きが続いている。 ✓ 家電販売は、高価格帯のテレビや白物家電などが伸びた。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p>
	<p>100.6(98.8)</p>	<p>1.95(1.95)</p>	<p>3.0%(1.1%)</p>	<p>0.9%(2.4%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値(鉱工業生産指数は7月、括弧内は4月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

近畿

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉 生産は、緩やかな持ち直しの動きに一服感。個人消費は、インバウンドが好調を維持し、国内も高額品が堅調で、緩やかに改善している。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感 ✓ 電気・情報通信機械は、車載向け部品やノート型パソコン等により増加。 ✓ 汎用・業務用機械は、コンベヤ等により堅調。輸送機械は、引き続き高水準で推移。 ✓ 一方、生産用機械は、工作機械、産業機械等の需要減少等の影響により弱含んでいる。 ✓ 総じて、生産は緩やかな持ち直しの動きにあるものの、在庫増による在庫調整の声や中国経済の減速による影響が聞かれるなど、一服感がみられる。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 一部において先送りや下方修正の動きがみられるものの、製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強及び省力化を中心に、多くの企業で昨年度並みか昨年度以上の設備投資を見込んでいる。 ✓ 非製造業では、小売業で新規出店が見込まれるほか、消費増税対応を含めたシステム投資がみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 製造業では、IoTやAI関係を中心とした技術者が特に不足しており、小売業やサービス業などでは、パート・アルバイトの確保が困難な状況が続いている。 ✓ 人手不足の対策として、雇用環境の改善や省力化を推進するとともに、外国人・高齢者など多様な人材を活用することなどがみられる。 ✓ また、採用は新規・中途ともに人材の獲得競争が厳しい状況が続いている。</p> <p>○個人消費は緩やかに改善している ✓ 百貨店は、堅調な高額品に加え、昨年の台風の反動増も寄与。 ✓ スーパーは、天候不順要因により食品、衣料品、住居関連品ともに季節商材に厳しい動き。 ✓ 家電販売は、エアコンを始め、洗濯機、冷蔵庫などの白物家電やテレビ、パソコンが大幅増加。 ✓ 新車販売は、普通車、軽乗用車が好調持続。 ✓ インバウンド消費は、韓国、香港の動向に不安がみられるものの、総じて売上げは堅調に推移。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p>100.8(102.5)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.61(1.64)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.8%(0.4%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.2%(4.2%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中国

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直しの動きに足踏み感がみられる〉 生産は、自動車の輸出減や電子部品・デバイスの一部に需要減がみられ、足踏みをしている。個人消費は、天候不順などの影響もあり、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は足踏みをしている ✓ 鉄鋼は、自動車向けなどの需給状況に応じた調整により、生産減。 ✓ 化学は、一部事業所の定期修理明けにより、生産増。 ✓ 自動車は、前期に比べ新型車の生産が落ち着いたことや輸出が減少したことにより、生産減。 ✓ 汎用・生産用・業務用機械は、受注状況に山谷がみられるが、概ね横ばい。 ✓ 電子部品・デバイスは、海外市場の影響を受けて一部に需要の減少がみられる。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 製造業では、引き続き受注増加や新商品対応のための生産設備、省力化設備の導入等が計画されている。 ✓ 非製造業では、引き続き新規出店や店舗改装、既存設備の維持更新が計画されているほか、消費増税対応のための設備の導入も進められた。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 製造業では技術系職員、非製造業では販売員などを中心に人員不足が続いている。 ✓ 引き続き、外国人の積極的な活用や中途採用が実施されている。</p> <p>○個人消費は持ち直しの動きに足踏み感がみられる ✓ 百貨店では、高額品は好調に推移するも、天候不順の影響により衣料品が低調。 ✓ スーパーでは、酒類や高価格帯の寝具などが好調だったものの、前年の猛暑や豪雨災害に伴い販売が増加した飲料など関連商品に反動減がみられた。 ✓ ホームセンターでは、天候不順の影響によりレジャー用品や園芸用品の販売が苦戦。 ✓ 家電販売では、テレビやパソコンなどが好調に推移している。 ✓ ドラッグストアでは、日用消耗品や化粧品、医薬品などの販売が好調。 ✓ 新車販売は、7、8月とも低調で前年を下回った。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">96.7(103.8)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.88(1.93)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">0.9%(0.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">0.3%(4.0%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

四国

全体景況	<p>〈持ち直しの動きに足踏み感がみられる〉 生産は、電気機械等で一部に弱い動きがみられるなど弱含みで推移。個人消費は、持ち直しの動き。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p>○生産は弱含みで推移 ✓ 汎用・生産用機械は、建設機械、農業用機械が国内外の需要好調により、高水準で推移。 ✓ 輸送機械は、新造船市場が回復傾向にあり、持ち直しの動きがみられる。 ✓ 鉄鋼は、堅調を維持しているものの、米中貿易摩擦などを背景に、先行き不透明感がある。 ✓ 電気機械は、電子部品が米中貿易摩擦などの影響により一部に弱い動きがみられる。</p> <p>○設備投資は持ち直しの動き ✓ 製造業では、パルプ・紙・紙加工品、プラスチック製品などを中心に増産・新規受注対応といった投資計画がみられる。 ✓ 非製造業においても、小売業で店舗の新設や改装などの計画のほか、人手不足に対応した合理化・省力化、消費増税対策などの計画などもみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有資格者、開発担当要員、現場要員などの必要な人材が確保できない状態は続いている。 ✓ 引き続き、地道な採用活動、派遣社員、外国人の活用など、人材確保のための努力が続けられており、合理化・省力化投資や一部工程のアウトソーシングなどの動きもみられる。</p> <p>○個人消費は持ち直しの動き ✓ 梅雨明けの遅れなどから百貨店はやや弱い動き。スーパーでは季節商材の動きが鈍かったものの、食料品が堅調に推移したことから持ち直しの動き。コンビニエンスストアでは、気温が上がらずソフトドリンクなどが低調。 ✓ 家電販売は、冷蔵庫、テレビなどに動きがみられたことから持ち直している。 ✓ 新車販売は、乗用車では新型車の投入効果などから、軽乗用車、普通車を中心に持ち直しの動き。 ✓ 観光は、国内旅行がやや弱い動きとなったものの、海外旅行は堅調に推移。域内観光地ではお盆の台風など天候による影響がみられた。インバウンドは増加傾向にあるものの、韓国からの入り込み客数が減少している。</p>			
関連指標	鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	96.3(92.7)	1.57(1.59)	1.1%(1.3%)	▲0.1%(3.1%)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

九州

<p>全体景況</p>	<p>〈横ばいとなっている〉 生産は、スマートフォン用半導体が増加する一方で、汎用・生産用・業務用機械や素材関連等の一部で弱含み。個人消費は、天候要因で苦戦しつつも、全体としては横ばい。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばい傾向であるが、弱含んでいる ✓ 輸送機械は、自動車生産がマイナーチェンジ効果及び世界的なSUV人気等を背景に堅調に推移。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン用は多眼化や高価格帯への切替により好調であるものの、中国向けで弱い動き。 ✓ 汎用・生産用・業務用機械は、全体としては底堅く推移しているものの、中国向けで弱い動き。 ✓ 素材関連は、鉄鋼は、自動車・建築向け等が堅調であるものの、化学は半導体関連で弱い動き。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業では、設備の維持更新の他、設備能力増強、新商品の開発・製造や新分野への進出に向けた動きがみられた。また、職場環境改善に向けた投資の動きもみられた。 ✓ 非製造業では、新店や店舗改装の他、消費増税に備えたレジやシステム更新などの動きがみられたほか、働き方改革に向けた対応のため、従業員の職場環境改善や効率化投資などの動きも引き続きみられた。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 全体的には人手不足。このため、人材獲得や働きやすさ向上に取り組む企業や、非正規社員も含めた退職年齢引上げの動きがみられた。この他、同一労働同一賃金に向けた待遇改善の動きもみられた。</p> <p>○個人消費は横ばいとなっている ✓ 百貨店・スーパーは、天候要因で販売が苦戦しつつも、高額品等に動きがみられた。 ✓ 家電販売は、7月は天候要因で季節性商品の販売が苦戦したが、8月以降白物家電やテレビに買替の動きがみられた。 ✓ 観光は、GWの反動に加え、天候要因及び一部地域では韓国人入国者数の減少の影響を受け、売上が減少。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p> <p>105.4(105.7)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.47(1.49)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲0.3%(▲0.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>1.0%(3.1%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

沖縄

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 雇用情勢は有効求人倍率が安定的に推移し、改善が続いている。個人消費は百貨店・スーパー、ドラッグストアが堅調であり、改善が続いている。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は横ばいとなっている ✓ 鉱工業生産指数は管内の主要な製造業である食料品工業等も含め、全体としては横ばい。 ✓ ヒアリング結果からは、短期・長期の見通しは「変化なし」が最も多かった。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 製造業及び非製造業の2019年度の設備投資計画が前年度比で増加している。 ✓ ヒアリング結果からは、2019年度の設備投資を「増額する」との回答が前期(2019年4月-6月)に比べ増えた。 ✓ 加えて、消費増税に向けたレジ入れ替えのための設備投資を行うとの声もあった。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの、1年程度毎月1.2倍前後で推移しており安定的に推移している。 ✓ ヒアリング結果からは、7割以上の事業者が人手が不足していると回答。一部企業において、採用確保のため賃上げを行うとの声があった。</p> <p>○個人消費は改善が続いている ✓ 百貨店・スーパー、ドラッグストアの販売額は前年を上回り、堅調に推移している。 ✓ ヒアリング結果からは、コンビニエンスストア・ホテル等の企業からは客単価が伸びているとの声もあった。一方で一部の企業からは日韓関係悪化に伴う需要減等を懸念する声があった。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center; background-color: #f28b82;">91.7(86.1)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center; background-color: #f28b82;">1.21(1.18)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; background-color: #8eb4e3;">2.6%(3.4%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; background-color: #8eb4e3;">1.0%(3.1%)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値(鉱工業生産指数は7月、括弧内は4月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。